

発達障害について：学生のみなさんへ

学生相談室担当

餅原 尚子



- *大学生になると、自分のいろいろな面がみえてくることがあります。
今、多くの大学生が「自分」について、とまどっている例がみられます。
- *例えば、「発達障害」かな~と思ったら、「学生相談員」や「担任の先生」など、相談しやすい先生を訪ねてみてください。

発達障害とは

生まれた時からその特徴があり、終生続くものです。知的に問題はなく、学習の問題、対人関係、生活上に様々な困難が生じるにもかかわらず、周囲や本人さえ自覚しづらく、困ってしまうことが、たくさんあります。

*ASD（自閉症スペクトラム障害：アスペルガー障害、自閉症など）

他者の気持ちを想像できなかったり、常識の理解が難しく、こだわりも強いので、柔軟に対応できないという特徴があります。
本人も、どうしてできないのか、気づくことが難しいのが現状です。

*ADHD（注意欠如多動性障害）

注意力に困難があり、衝動性をコントロールできにくいのが特徴です。

*LD（学習障害）

「読み」「書き」「計算」「聞く」「話す」「推論する」のいずれか、あるいは複数のことをすることが難しいのが特徴です。

気づくために

1) 入学後の、さまざまなトラブル

- *ASDの学生さんは、言葉を字義通りに受けとめてしまったり、規則に過度に忠実にしか行動できない、周囲の迷惑も顧みず、自分の思い込みやこだわりから、勝手に進めてしまうことがあります。
- *ADHDの学生さんは「提出物が期限に間に合わない」「とんでもないミスをしてしまう」「遅刻が多い」「複数の課題をこなせない」「整理整頓ができず、忘れ物が極めて多い、やたらと物をなくす」「落ち着きがない、待てない」などです。

*LDの学生さんは、板書が理解できず、ノートがとれない、先生が言っていることの意味がわからない、履歴書がうまく書けない、就職活動で面接がうまくいかない、などがあります。

2) 二次的に心理的、身体的症状が現れることがあります。

3) その他

- ・視線が合いにくい
 - ・歩き方がぎこちない
 - ・手先がとても不器用
 - ・なんとなく態度が硬い
 - ・服装がちぐはぐで、汚れや乱れに無頓着
 - ・字義通りに解釈してしまう
 - ・形式ばった、変わった用語の使い方をする
 - ・抑揚のない話し方をする
 - ・同じことを何度も繰り返す
 - ・話が、どんどん、ずれていく
 - ・せっかちで、相手にかまわず、一方的に話す
 - ・初対面なのに馴れ馴れしかったり、逆に過剰に丁寧に形式張った対応をする
 - ・感情の起伏があまりない
 - ・空気をよめない
- など

*もし、これらの状態がみられたら、チャンスです。

本学では、学生さんの気持ちを最大限に尊重し、「どうして、そうなってしまうのか」「一緒に考えてみよう」ということを大切にしています。
社会に出てからは、みんな忙しくなり、十分にサポートをうけられず、辛い思いを
してしまう人が大勢います。

*担任の先生をはじめ、学生相談員（神園先生、荒谷先生）や、進路支援課に来校される
ジョブ・サポーターに相談してみてください。

*「発達障害」という状態が明らかになれば、厚生労働省より、事業主への助成金や、
本人の希望で「ジョブコーチ（仕事の支援や、職場環境の調整など）」をつけて
もらうことができます。

（参考：日本学生支援機構「教職員のための障害学生支援ガイド：発達障害」）